



# ふれあい

409号

2026年4月発行

医療法人 百花会  
上野公園病院

大分県日田市大字高瀬2226-1

電話 0973-22-7723

## 「物価対応料」と「ベースアップ評価料」

院長 長野 浩志

令和8年6月から、医療機関を受診した時や入院した時に、新たな料金として「物価対応料」と「ベースアップ評価料」とが加算されるようになります。これは、医療機関が直面する人件費の増加や様々な物価の高騰に対応できるように診療報酬に上乘せされるものです。

最近の調査によると、日本の病院の経営状態は非常に厳しく、病院の約70%は赤字に陥っています。この要因としては、以下のようなものが挙げられます。

①物価高騰と円安により、病院では特に医療材料（注射器、注射針、カテーテル、ガーゼ、ビニール手袋など）や高額な医療機器（MRIやCT装置など）の購入や維持管理に多額な費用が必要になっています。

②電気代、ガス代の急騰により、病院では、24時間稼働させる必要のある空調や照明機器などの運用コストが増加しています。また、手洗いや清掃などで徹底した衛生管理を求められる病院では、一般家庭のような節水が困難で、水道代の値上げも影響しています。

③米などの食材料の高騰が続き、入院患者さんから頂く食事療養費では追いつかない状況になっています。

④人材不足の影響もあり、賃上げによる人件費増が収益を圧迫しています。ただし、病院職員の賃上げ額は一般企業と比べて低く、半分程度にとどまっています、更なる賃上げが求められています。

⑤一方、病院収入（その多くは診療報酬による）の伸びは前年比で、わずか2～3%しかありません。

今年の6月から医療機関を受診した時に生じる「物価対応料」と「ベースアップ評価料」の自己負担分は、患者さんにとっては新たな負担増になりますが、危機的な病院経営の改善と職員の給与改善のためには必要なものであることをご理解いただきたいと思います。



## ～成年後見制度～



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう  
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www.uenokoen-hospital.jp/>

E-mail

[uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp](mailto:uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp)

### 精神保健福祉士 宮本秀和

時期は未定ですが、現在の成年後見制度が大幅に改正予定とのニュースを見ました。

現在は「法定後見制度」と「任意後見制度」の2種類があります。

任意後見制度とは、将来的な判断能力の低下に備えて、財産管理や身上監護を本人に代わって行う「任意後見人」をあらかじめ定めておく制度です。

現在の成年後見制度では様々な問題も指摘されています。

- ・成年後見制度の利用を開始すると、本人が亡くなるまで、辞められない
- ・後見人の交代は難しく、最初に決まった人物が継続する
- ・後見人への報酬の負担が大きいなど

後見人への報酬は、財産額等をふまえ、家庭裁判所が決定します。月額2万程度が目安とされていますが、2023年の調査では、成年後見人の約25%が、報酬を求めていなかったとなりました。利用者の財産が少ないことが原因ではと推測されています。報酬をめぐるっては、利用者から「業務の割に金額が高い」として透明性のある制度改正や、また、現制度では、後見人の交代が難しいですが、財産状況や健康状態などで、柔軟に後見人が交代（弁護士や司法書士、社会福祉士など）することが可能になれば本人にとって、最適な後見利用につながるとの意見も多いです。必要な範囲で支援を受けられる、柔軟な制度へ変わりそうです。



### 認知症ケアに必要なこと 西1病棟 作業療法士 中山真一

認知症ケアで一番大切なのは、本人が「今できること」を奪わず、そのままの形で暮らしの中で続けてもらうことです。現場で長く働いていると、その重要性を痛感しますが、現実には「時間がないから」とスタッフが先回りして手を出してしまったり、知識不足で「危ないから」と動きを止めてしまったりすることがあります。実は良かれと思って手助けをしすぎることで、本人の力がかえって衰えてしまう「生活不活発病」という状態を招いてしまうことがあります。人間は、自分の力を使わなくなると、驚くほどの早さでその機能（認知機能も同じように）を失ってしまうのです。もちろん、年齢を重ねる中で「老化」による衰えは避けられません。去年は散歩に行けたのに、今年は外に出るのも一苦勞ということも現実にあります。しかし、「年だから仕方ない」と諦めるのではなく、現状での、その方にあった「心地よい活動」を見つけることが大切です。たとえば、外を歩けなくても、短い距離でも日の当たる所まで行き日光浴をしたり、誰かと一緒にお茶を飲んだりすることも、立派な「活動への参加」です。そうした外の空気を感じる時間は、脳を刺激し、心の安定にもつながります。「その人が今、何をしたいのか、何ならできるのか」を周りが優しく見守り、少しだけお手伝いをする。そんな当たり前の日常を支えることが、本人の力と笑顔を守る一番の近道になります。

